

職員による自己評価

A環境面

- 定員とスペースに関して、狭いというほどではないが、人数や利用者様の障害特性を考えるともう少し広いほうが良いという意見が見られました。職員の配置数は基本足りているが、所々で足りない事がある。

B児童への支援内容

- 活動プログラムが固定化されてしまうこともあるが時間が少ないので仕方ない部分もあるが、考えていかななくてはいけない。個々の担当者が活動内容も立案している為、他の担当者と活動内容が重複することがある。担当者間の連携が不足していた。
- 個別支援計画やモニタリングについては概ねできているの意見が多かった。

C関係機関との連携

- ご家族との連携に関しては、できているとの意見が多かったが、関係機関との連携ではどちらとも言えないの意見が多かった。学校やご家庭での生活に実際に苦慮されているケースではカンファレンス等が行われていますが、それ以外のケースだと他機関との連携がほとんどない事が原因だと分析できます。

D保護者への説明責任・信頼関係

- 保護者への説明はできているの意見がほとんどだった。

E非常対応

- マニュアルの周知ができているとどちらともいえないの意見に二分した、非常勤職員などへの周知が不十分であることが分析できる。

保護者による評価

A環境面

- 活動スペースは十分に取れているという意見が多かったが、一部どちらでとも言えないという意見があった。

B児童への支援内容

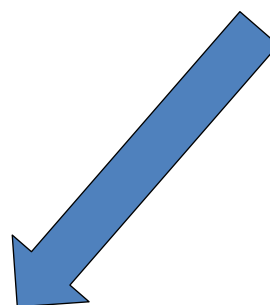
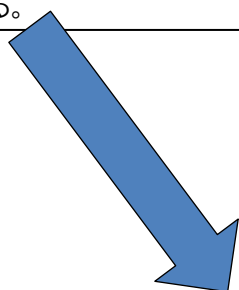
- 児童クラブとの交流は望んでいないという意見がほとんどでした。個別支援計画を基に丁寧に支援をしてくれる。細かく見られている。一人一人のびのび過ごせているとの意見がありました。

C事業所からの情報発信

- 保護者交流会に関しては、コロナ渦なのでできないのは仕方がない。支援内容を基にご家庭での対応など一緒に考えてくれる、様々な意見をもらえるという意見がある一方、活動内容を教えてほしいとの意見もありました。

D非常対応

- 非常時の対応については、概ね十分に説明ができているとの回答であった。



事業所内での分析

【共通点】

- 個別支援計画はニーズに基づき、モニタリングから丁寧におこなえている。
- 保護者と事業所の連携が取れている。(放デイ以外のサービスの情報提供など、活動内の枠にとらわれずに意見交換ができています)
- 地域の子どもとの交流がない。

【相違点】

- 保護者への非常時対応の説明はできているが、従業者への周知が不十分だった。
- 昨年度の反省点から、安全に運営を行おうとした結果やや活動が固定化されてしまう場面があった。保護者の方からはコロナ渦だから仕方がないとの意見だった。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- 個別支援計画を基に丁寧な支援が行えている。
- 事業所内での事だけでなく、学校やご家庭での悩み、進路や福祉サービスについて相談アドバイスができています。

事業所の改善点

- 担当者だけでなく、様々な職員が関わっている活動プログラムの立案が不足していて、利用者のニーズの共通理解が課題である。
- コロナ渦の中感染防止策を徹底し運営ができた反面、活動プログラムが固定化してしまう部分が見られた。

事業所の改善への取り組み

- 活動内容を送迎時だけでなく、必要があれば後日電話やメールなどでお伝えしていく。
- 職員間での様々な事への周知が不足していた、非常時マニュアルや研修の報告等は毎日のミーティングで行い、利用者の支援内容やニーズの確認、活動プログラムの検討は月に1回会議の場を設けて、職員間で共通認識を持てるようにしていく。

事業所名 _____ ピース和田町 _____

担当者 所長 原 駿介 _____